



JAL不当解雇撤回ニュース

No326号 2013.11.01
発行: JAL 解雇撤回国民共闘事務局
連絡先: 航空労組連絡会事務局
〒144-0043 大田区羽田 5-11-4
フェニックスビル内
TEL: 03-3742-3251 FAX: 03-5737-7819
<http://www.jalkaikotekkai.com>

1800人が結集

JAL不当解雇撤回 高裁勝利！ 早期解決をめざす 10.25大集会

10.25大集会



【写真】支援の輪は全国に！ 集会に参加した各団体の幟旗 200本以上が壇上に勢ぞろい。圧巻でした。

1800名を超える参加者。10月25日、東京文京区シビックホールは熱気に包まれました。JAL 不当解雇撤回 高裁勝利！ 早期解決をめざす 10.25大集会。その名の通り、参加者は高裁勝利・早期解決に向けて全力を尽くすことを誓い合いました。JAL 不当解雇撤回闘争！ 今、闘いは最大の山場を迎えています。

糸谷共同代表(全国港湾委員長)が開会の挨拶



集会は司会の全労協全国一般東京労組の柳瀬(写真左)さんの“機内アナウンス”でテイクオフ。主催者を代表し、支援共闘の共同代表、糸谷全国港湾委員長が開会の挨拶を行いました。糸谷共同代表(写真右)は、裁判闘争が年内結審、年度内には判決という重要な局面を迎えていることを指摘し、一層の結集を呼びかけました。



った。「解雇の不当性は明らか」と、強調しました。

各地の代表から決意表明＝大阪、京都、愛知

集会には各地から多くの仲間が参加。大阪支援共闘の副代表の山下(大阪全労協議長)さん、京都支援共闘から佐々木(合同繊維労組委員長、写真下)さん、愛知の会事務局長谷藤(建交労、写真上)さんの3名が登壇。定例宣伝をはじめとする支援共闘の活動を紹介。大阪支援共闘の山下さんは「裁判は別の手段による団交。団交で圧勝していた原告たちは、控訴審でも必ず勝つ」と述べ、勝利判決獲得、争議の全面解決に向けともに闘おうと呼びかけました。



上条弁護士団長が裁判の状況を報告

上条弁護士団長は、控訴審で、①更生計画で打ち出した人員体制を解雇時点ですでに達成しており解雇の必要性がなかったこと、②会社は約束していた整理解雇回避努力を一切行わず、③労働組合の弱体化を狙って必要のない整理解雇を強行したことを立証したが、会社側は、いっさい反論できな



日弁連前会長宇都宮弁護士が激励の挨拶

「東京なのに宇都宮、弁護士なのに健二」との紹介を受けて登壇した日弁連前会長の宇都宮弁護士。「この裁判は日本に、まっとうな司法を取り戻す闘いです。私も一応援団としてこの闘いに参加させてほしい」と激励の言葉を述べてくださいました。



世界のパイロット(OCCC)から支援のメッセージ



日航も参加する航空会社のアライアンス ワンワールド。その参加企業で働くパイロットの労働組合で構成する OCCC の代表 30 名が登壇。代表して OCCC 議長のトニー・チャップマン機長(アメリカン航空)がスピーチ。世界のパイロットは日航の不当解雇を許さないと連帯を表明しました。

「励ます会」より醍醐東大名誉教授が挨拶



醍醐教授は、会計学を扱ってきたものとして、これだけは何度でも指摘したい。解雇した 165 名の人件費は、営業費用のたった 0.13%。これを削減しないと「沈みかけた船が沈む」とか、「整理解雇が必要だった」などとする論拠は成り立たないと強調し、地裁判決の誤りを、鋭い口調で指摘しました。

共に闘う争議団の紹介と決意表明



集会には多くの争議団から参加していただきました。その中から、ロックアウト解雇と闘う JMIU 日本 IBM 支部の大岡委員長(写真上)、郵政非正規 65 歳定年制無効裁判の原告・丹羽さん(写真右)が闘いの状況を報告するとともに、首切り自由を許さず、不当解雇撤回をめざしとみに闘おう!と決意を表明しました。



参加した国会議員から激励の挨拶

集会には、日本共産党から穀田衆議院議員、辰巳、吉良参議院議員の 3 名が参加し、ともに闘うと、激励と挨拶。また、社民党からは又市幹事長や福島前党首等からメッセージが寄



せられ、又市幹事長のメッセージが紹介されました。

解雇撤回し安全守る=当該労組の決意表明

日航乗組の田二見委員長は、整理解雇後の職場実態を報告し、「人材確保もままならず育成も追いついていない」とのべ、「不当解雇撤回と安全運航の確保に全力を上げる」と決意を表明。そして、「一層のご支援を」と訴えました。
キャビンクルーユニオン(CCU)



の古川委員長は契約制客室乗務員雇止め裁判で、最高裁が上告棄却という不当な決定を下したことを報告するとともに、「解雇や雇止めは人の手足を縛るようなものだ。しかし、心までは縛れない」不当解雇撤回とともに、安全で明るい職場をめざして闘うと決意表明。

不当判決に倍々返し=原告の決意表明

原告団を代表し、山口乗員原告団長、内田客乗原告団長が決意表明を行いました

山口団長は「憲法改悪、雇用破壊の労働法制改悪、TPP、消費税に社会保障の改悪、原発推進等など、今安倍政権が進めている政策はいずれも国民の生存権に関わる重大問題」「この悪政を食い止め、国民が安心して暮らせる社会を実現するためにも絶対負けれない闘い」と述べ「不当解雇は必ず撤回させる」と決意を表明。



内田原告団長は、「徹夜で車を運転し駆けつけてくれた」仲間がいることも紹介し、全国各地からの参加に感謝を表明。また「集会に義母も参加しています。原告にも家族がいるんです」と述べ、原告の思いを語るとともに「不当判決に倍々返しする」と、闘いの決意を語りました。



日比野共同代表(MIC 議長)が閉会の挨拶

集会は、日乗連館野議長(写真左)が提案した決議文を満場の拍手で採択。閉会のあいさつに立った日比野共同代表(MIC 議長、写真右)は今日の集会が 1800 名の参加で成功した。この結集で勝利判決獲得、そして争議全面解決をつかみ取ろうと、力強く訴えました。



参加されたみなさん!ご苦労様でした!